

勉強会 <合同> 第1回

参考資料

勉強会開催概要

<沼津駅周辺地区>

<原地区>

沼津高架PIプロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会 開催概要

去る1月12日(土)、PIプロジェクトでの初めての勉強会が開催されました。鉄道高架事業や沼津駅周辺地区のまちづくりに関心のある団体から23名が参加したほか、傍聴者や報道関係者も多く集まり、活気あふれる会となりました。

今回は初めての開催となるため、冒頭で勉強会の目的やスケジュールがPI運営事務局から説明されました。その後の会の運営は、第三者となるファシリテーターに委任され、3つに分けられたグループ毎に話し合いが始まりました。

話し合いは、勉強会の進め方についての意見交換から始まり、続いて沼津駅周辺地区の地域づくりの目標について議論され、最後に各グループの結果が発表され、およそ3時間に渡る議論が終了しました。

前半の進め方についての議論では、目標に立ち返った議論を歓迎する意見がある一方で、鉄道高架の必要性に短絡してしまう危険性があるとの指摘や、判断が先延ばしされるのではないかとの懸念も寄せられました。この他、客観的データの提供を求める声などがありました。

後半の地域づくりの目標に関する議論では、これまで寄せられた意見をもとに「暮らし」「交流」「産業・雇用」「交通」「防災」の観点からの意見交換が行われました。

「暮らし」については、子育て世代や高齢者などのターゲットを具体的に捉えた目標設定が必要といった意見や、住民にとって魅力ある地域づくりを進めることで定住人口を増やすことが大切といった意見、また、コンパクトな範囲に生活のための施設や緑が充実すべきといった提案や、区画整理区域内の現状に配慮すべきとの意見もありました。

買い物や通勤者、観光客などの来訪者に関する「交流」の議論では、沼津やその周辺の観光資源やキラメッセなどの新たな施設などを活かした具体的な戦略を持ち、県東部地域を視野に入れて交流を盛んにすべきとの指摘や、観光客だけでなく定住者を増やすことにつながるような魅力が必要との意見が出されました。

地域の「産業・雇用」については、車社会に対応した中心市街地の商業のあり方や課題について指摘があった他、物販だけでなく新たな商業を活性化し、沼津の特色づくりをしたいという展望が語られました。

駅周辺地区の「交通」や「防災」については、地震や津波発生時の避難に対する不安や、橋の安全性への不安など、特に災害時の交通課題が懸念されています。

総じて、鉄道高架事業等について考える上で、まずは沼津駅前だけでなくより広い範囲で目標を共有することが大切との指摘や、沼津駅周辺地区のポテンシャルを最大限に活かす視点を持つという提案がありました。

次回(2月2日(土))は、引き続き地域づくりの目標についての議論を行うとともに、広域的なテーマについても意見交換を進める予定です。

※グループ検討の概要について

この資料は、グループ検討の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ検討の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会

グループ検討の概要【Aグループ】

勉強会の進め方について、「様々な考えの人がいるが、沼津をよくしたいという想いは皆同じ。まずは特定の考えにとらわれず、沼津をよくするにはどのような街であったらよいか、という大きな目標を話せたらよい」「まちづくりは行政におまかせではなく、市民も考えなければいけない。どのような街にしたいのかを話し合うことで、それが目標になるのではないかなど積極的なご意見を頂きました。一方、参加者構成について、「これからの沼津を考えるので、若い世代や男女比にも配慮したほうがよかった」というご指摘がありました。また、今後の勉強会では、目標を定め、さらに議論を深めるために、「現在進んでいる一連の事業が、沼津の街にどのような効果・影響を及ぼすのかを、これまでの報告書やデータなどをもとに検証しながら進めたい」というご意見を頂きました。

地域づくりの目標について、概ね皆さんのご意見として、大きく以下の5点が出されました。

1. 「暮らしやすいまち」とはどのような街なのか、高齢者、子ども、子育て世代など各々の立場にたって、もう少し具体的な目標を掲げたらどうか。
2. 「かつての賑わいを」の「かつて」は不要。これからの沼津は商業だけではない街を考えていく必要があるのではないかな。
3. 「産業・雇用」については、地区内の既存業態と共存共栄できるよう、新たな業態で新たな雇用を図る必要があるのではないかな。
4. 「地元資源の活かし方」について、もう少し具体的な目標をかかげたらどうか。点のままでは活かさない。線や面になって初めて地元資源として活かせるのではないかな。
5. 「目標」として、地区内および隣接部のゾーニングができるとよいのではないかな。

上記の点を話し合う中で、以下のような意見を共有しました。

「暮らしやすいまち」については、「高齢者にとっては、生き甲斐や役割をもって生活できる、引きこもらず家以外にも過ごせる場がある。子育て世代にとっては、子どもの教育・保育環境が整っている、放課後に子どもが過ごせる場がある」また、「支え合うには、子どもを増やす、人口を増やすことが必要」との意見を頂きました。

「賑わいのあるまち」については、「子育て世代の多くは共働き。買物も、郊外モール型施設や通販など大きく変わった。商売＝モノを売るだけでは人は街に出ない。サービスを提供・享受できる街、歩いて楽しくなる街など、街に出たくなる魅力が必要。その中でも駅は、人が集まり、溜まり、交流できることが大きな魅力になる」、「まちの回遊性や、車でのアクセス、駐車環境なども人が集まるためには重要」との意見を頂きました。

「雇用」と「既存業態との共存共栄」については、「高度医療、教育、カルチャー、スポーツ、介護などで雇用を図り、施設利用者によって既存商店や飲食店も集客を図る」、「地元資源」については「今は街なかの回遊性がない。特に中央公園・狩野川周辺は、駅から歩ける距離なのに地域資源としての魅力を活かしきれていない。沿岸と合わせ、面的な魅力づくりが必要である」との意見を頂きました。さらに、「ゾーニング」については、地区内だけでなく、今回の話し合いに繋がる広域な視点での「棲み分けが必要」との意見も出されました。

以上、第1回は、「交通」「広域」の話題も含めながら、「暮らし」「交流」「産業・雇用」を中心に、地区の目標を確認しながら話し合いました。

※グループ検討の概要について

この資料は、グループ検討の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ検討の中で確認して下さい。

沼津高架P1プロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会

グループ検討の概要【Bグループ】

勉強会の進め方については、「勉強会の開始時期が遅れたことを考えるとしっかり議論をするためには時期を延期した方が良くと思うが事務局はどう考えているのか」という会のスケジュールに関する質問が出されました。その他にも、「原地区の勉強会との整合性をどう考えているのか」「参加者に女性がないのは選考時に配慮が必要だったのでは」「市の職員が参加していないのは問題」などのご指摘がありました。

一方で、「高架事業に賛成の人にも反対の人にもそれぞれの理由があるので、意見交換して各々の考えを理解し合い、沼津のまちを良くしたいという共通の思いを実現させるためにジレンマを克服できる場になると良い」という期待も出されています。

また、この勉強会を有意義な場としていくために、高架事業に関わる様々な経緯を参加者全員が理解した上で、市の財政状況や投資効果のデータに基づき、勉強会での議論がしっかり反映される様に位置づけ明確化して議論を進めていきたいというご意見を頂いています。

地域づくりの目標に追加、修正したい視点として、全体を通じて下記の3つに留意して欲しいという意見が出されました。

1. 地域づくりの目標の対象エリアは、沼津駅周辺と言っても駅や駅前だけでなく、もっと広い範囲で考える必要がある。エリアマネジメントの視点も大切だと思う。
2. 現状のままではどの地域にも当てはまる様な表現になっているので、もっと沼津の自然を表現し、狩野川、香貫山、キラメッセなどの固有名詞も入れて、読んだ人がイメージしやすく沼津らしさのあるものにしたい。
3. 沼津はポテンシャルがある地域だと思っているが、仕掛けやソフト、広報力が欠けているので、目標の中にそれらの必要性を強調して入れていくのが良い。

個別の表現については、『暮らし』では「誰もがという言い方ではなく、子育て世代などターゲットを明確に入れた方がわかりやすい」「区画整理事業によってコミュニティに影響を受けている地域への配慮も必要」といったご意見が出されています。

『交流』では、「まちの活性化を図るには定住人口を増やす必要がある」という意見がある一方で「定住人口の増加は難しいのでコンパクトシティ化を図って中心部に人を住ませるのが現実的」という考えも出されましたが、公園などの子供が遊べる空間づくりや商業だけではなく公的施設による魅力づくりなどにより、中心部に住むメリットが感じられる様にすることが重要だという点は共通していました。

『産業・雇用』では「新たな産業の誘致だけでなく既存企業との関係性強化の視点も重要」「企業誘致の呼び水となる大学院大学や研究機関の誘致についても触れる」「農林水産業の振興と結び付ける視点が必要」というご意見をいただきました。

『交通』では「市民の足となり近隣都市間を結ぶ公共交通の充実」「歩いて楽しいだけでなく天候に左右されず、車いすやベビーカーにとって便利で快適な視点も必要」、『防災』では「中心市街地の建物の老朽化が進み危険度が増していることへの対応も重要」というご意見の他、橋の安全性や災害時の避難についての懸念も出されていました。

※グループ検討の概要について

この資料は、グループ検討の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ検討の中で確認して下さい。

沼津高架P1プロジェクト 沼津駅周辺地区第1回勉強会
グループ検討の概要【Cグループ】

まずは、参加者全員が、自己紹介をかね勉強会の進め方について意見を出し合いました。みなさん共通して、沼津を誇れるようなまちにするという同じ目的のもと、いろいろな意見の違う人と建設的な意見を出し合いたい、という気持ちである事が確認できました。

また、高架事業の目的や効果、裏付けとなるデータ等を再検証する場となることに期待するというご意見が出されました。たとえば、南北交通の課題、高次都市機能とは何か、時間軸の中での高架化の効果について検証したいといった意見や、駅利用者数、商業実態、市の財政などのデータに基づいて議論をしたいといった意見がありました。

その他、これからの社会のあり方の変化を予測し、特に車社会への変換に商店街がどう対応して行くかを考えたいというご意見がありました。

地域づくりの目標の各項目について確認しながらそれぞれの意見を出し合いました。

『暮らし』の面からは、「ドーナツ化でまちが拡散しているなかで、保育所の充実、生鮮品の店、人が集える公園等の充実など、もういちど生活者、特に子育て世代の視点で魅力のあるまち、高齢者の住みやすいまちにしたい」「すぐには無理でも、将来的には駅の近くに定住人口を集めることを目標にすべきでは。そのことで商店街も賑わうのではないか」といった目標が確認されました。

『交流』については、賑わいを取り戻すためには、「中心市街地へのニーズの変化に対応し、商業だけではなく居住、観光、教育、文化などでまちに人を呼び集めるしかけ・戦略が必要である。これまでは戦略がなかったのでは」という意見がありました。仕掛け・戦略として、たとえば「高齢者向けのマンションなどのニーズの高まりを反映させては」「若い世代を集めるために、大学・専門学校を誘致しては」「まちの顔、沼津のシンボルとなるような公園・文化施設の一体化した緑のゾーンがほしい」「コンベンションセンターで全国的な会合を誘致しつつ、地域の活性化施設としても活用したい」といった議論がされました。

『産業・雇用』については、特に商業、商店街の活性化が話題になり、「中心市街地の商店街がまとまって対策・戦略を考えることが必要では」といった指摘や、「郊外から車で買い物に来る人に対応した商店街となるため駐車場整備が大事」などの意見がありました。また、観光についても、「今後の沼津の活性化にとっては大変重要で、駅周辺には沼津港や周辺観光地のハブ、玄関口としての機能（宿泊、特産品の店など）が求められている」という意見を頂きました。

ここで、暮らしや交流、産業についての「このような戦略があってこそその活性化であり、高架化すれば活性化できるということはない」という意見も出されました。

第1回は、『暮らし』『交流』『産業・雇用』を中心に地域づくりの目標を確認しました。共通して、「時代のニーズの変化をふまえて、どのような活性化戦略を立てるかが重要だ」という意見を頂いています。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

沼津駅周辺地区第2回勉強会

開催概要

2月2日（土）、沼津駅周辺地区にて第2回勉強会が開催されました。25名が参加した他、PI プロジェクトを監視・評価するPI委員会から委員2名が出席しました。

冒頭、会議の運営がファシリテーターに一任された後、勉強会の進め方に関する前回挙げられた質問についてPI運営事務局から回答がありました。勉強会開催のスケジュールが当初より延長されること、参加者から資料を提供できること、また、勉強会では予断ない検討が期待されていること等が改めて確認されました。

続いて、グループ検討の前半では、沼津駅周辺地区の地域づくりの目標に関して主に、前回討議時間の足りなかった「交通」と「防災」の観点からの意見交換が行われました。「交通」については、沼津駅南北の自動車・歩行者・自転車交通の課題解決が必要であることの他、魅力的で賑わいを生む道路空間や交通弱者にも便利な公共交通の活性化などについて意見がありました。また、駅前には、アクセスしやすい、人が集まりやすい施設や空間が必要といった意見もありました。「防災」については、駅の南北市街地において津波に対する危機感や対策にギャップがあることが心配、避難のための施設・空間が必要などの意見がありました。

後半では、広域的な「拠点」「交流」や、対策の「戦略」「財政と事業効果」の観点から議論が行われました。沼津市は、商業の面では既に県東部地域の「拠点」ではないし、交通やモノの「交流」の中核機能は郊外に移っているのでは？という現状認識についての議論があり、今後は、より広い文化圏を視野に入れつつ、文化・教育や自然環境、新たな産業活性化を図り拠点性を持つという展望が語られました。「戦略」については、地域づくりの目標を明確にし、実現に向けた最善策を客観的かつ迅速に判断してほしい、その際には長期的な経済状況予測に基づくことも重要という意見がありました。また、県が調整役として積極的に介入して、民間と行政の協力体制を求める提案がありました。

「財政と事業効果」については、市の財政状況は現状でも不安があり、どのような計画であっても、市の負担額が明確に示されること、民間からの大きな投資が生まれる可能性がある計画であることが大切だといった意見がありました。

また、PIプロジェクトの進め方についても改めて議論があり、沼津市やJRとの意見交換の場を求める声、インターネット等を活用して様々な立場からのより幅広い市民との議論を期待する声がありました。

最後に、PI委員から、「勉強会は、沼津市をよりよくするという共通の思いのもと様々な意見の共通点を見つける意義がある。悲観的な意見を出すのではなく長所を伸ばすための議論に期待したい」という参加者に向けた要望と、「若い世代や女性からの視点も取り入れて検討を進めるべき」というPI運営事務局に向けた要望がありました。

次回（3月2日（土））は、これまでの議論のまとめと、地域づくりの目標をどう達成していくか、ステップ3に関わる議論が始まる予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 勉強会（沼津駅周辺地区）第2回
グループ検討の概要【Aグループ】

第1回に続き、地域づくりの目標について話し合い、概ね皆さんのご意見として、大きく以下の5点が出されました。

1. 「交通」については、「移動しやすいまち」にすることで、人がまちにでて「賑わい」が生まれ、また、まちに人が「住む」ことで「賑わい」が生まれるのではないかと。
2. 「歩いての移動」については、「移動できる」ことと「ひと休みできる」ことをセットで、「自転車での移動」については、「移動できる」ことと「駐輪できる」ことをセットで目標として掲げておく必要があるのではないかと。
3. 「災害時の避難」については、避難場所が少ない現状から、「地震・津波」については民間施設の活用、「火災」については広い公園の新設などを掲げてはどうかと。
4. 「財政と事業効果」について、「沼津駅周辺が市民にとって利用しやすく暮らしやすくなること」は共通の思いである。「それを実現するために何に費用を使うか、どのようにすると効果がでるのか」については、状況を明らかにしながら検討を進められるとよいと。
5. 「広域の拠点」「広域アクセス」については、沼津駅周辺に全ての機能を集中するのではなく、周辺市町、特に三島との住み分けが必要ではないかと。

上記の点を話し合う中で、以下のような意見を共有しました。

「移動する」「住む」ことがまちの「賑わい」につながることにについては、「市民がもっと駅周辺地区やその周辺に住める環境をつくり、中心部に歩いていけるようにする」「子どもたちが過しやすいまちであれば、家族で行ける。家族で行けば、そこで遊んだり、食べたりとする。それが賑わいになる。」との意見を頂きました。

「自転車での移動」については、「利用しやすい環境をつくる（ハード整備）と同時に、利用のルールづくり、マナーの向上（ソフト施策）もあわせて進めることが大切」「自転車を利用しやすい環境をつくる中で、駅の役割として、通勤、通学はもちろん駅利用者が気軽に使えるような駐輪環境を駅前や駅に整える必要がある」「自転車と同様に、バイクの駐輪環境も駅前や駅に必要である」との意見を頂きました。

「広域的な拠点」については、「周辺の市町との役割分担を考える中で、とくに三島とは、相互補完できるような施策が必要である。」との意見を頂きました。

「広域連携」「広域からのアクセス」については、「沼津と三島との連携を生かすには、まず、そこをつなぐ道路整備が急務である。電車ではすぐだが、車で行くと非常に時間がかかるのが現状である」との意見を頂きました。

「財政と事業効果」については、「高架化よりも実際に動いている区画整理事業に期待している」「高架化事業と区画整理事業が総合整備事業として一体で動いているが、選択肢として、切り離して考えることも検討できたらよいのではないかと」との意見を頂きました。

以上、第2回は、「交通」「防災」「広域」を中心に、地域づくりの目標を確認しながら話し合いました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 勉強会（沼津駅周辺地区）第2回
グループ検討の概要【Bグループ】

B グループでは広域レベルの地域づくりの目標と進め方に関する課題の整理についての意見を出し合った後、残った時間で沼津駅前のエリアについて自由に意見交換をしました。

広域レベルの地域づくりの目標では『拠点』への意見が多く、「箱根や伊豆までを含めた、昔からの文化圏、経済圏に基づいて広域を捉える」「県東部と伊豆地域を一体的に捉え、全体のランドデザインを考える視点が必要だ」といった、静岡県東部よりももっと広い範囲で広域を捉えるという意見が出されました。一方で、「実際に物事を動かしていくためには漠然とした絵を描いているだけではなく、1店舗、1企業のレベルから何をすべきかを考えることも重要」という考え方も出されています。

また、歴史的、地勢的、文化的にポテンシャルはあるのだがそれを磨いてこなかったために、沼津市は既に拠点性を失ってしまっているのだから、「事実は受けとめた上で拠点性をもう一度取り戻すことを考え」、「三島や富士と同じようなことをするのではなく、他にない開発をするという視点」が必要だという意見が多く出されています。「周辺市町との役割分担の中で沼津はどうあるべきかが見える」と考えると、地域との連携においては「市町村の枠を超えて施設投資などを行うのが良い」という意見もありました。

『交流』では、「新東名のサービスエリアと地域との関係を密にして、周辺の町との交流や経済の活性化を図る視点が必要」という意見があるのと同時に、「サービスエリアの活況は一時的なもの。それだけに頼るのではなく市内に交通の要衝を点在させて作る」ことが大切だという意見が出ています。また、本来はサービスエリアと同時にスマートインターチェンジ化を図るべきだったにも関わらずタイミングを逃してしまったことに触れ、「タイミングの重要性を意識すべき」という発言もありました。また、「公共交通政策、道路を道路網として考えて整備するという戦略的な視点に欠けている」ことが指摘されています。

『戦略』では、「鉄道の線路がベルリンの壁の様に南北を隔てているのが最も大きな問題であり、南北の歩行者交通の確保のために、すぐに効果のある対策を考える必要がある」「既存の跨線橋を南北自由通路とするのは、抜本的な対策にならなくても、きっかけにはなるのでは」という意見がありました。「市民と民間と行政が協力する際の行政とは市だけではなく、県が調整役として積極的に介入する」必要性も指摘されています。

『財政と事業効果』については、文化施設への予算が削られている現状等に触れ、「既に市の財政には無理が生じているように感じられるので細かいところまで予算が行き渡るようにしてほしい」という意見や、「投資の必要性や費用対効果だけでなく、誰が投資すべきか、民間なのか行政が税金を使ってやるべきことなのかを見極めることも大切だ」という意見がありました。

『進め方に関する課題』では、「市の参加が必要ではないか」「勉強会での議論が反映されるためにはJRにも参加してもらい考えを聞きたい」との意見が重ねて出されています。「異なる意見を持つ人が互いの意見を言い合うことで方向性が見えてくるのでこういう場は重要だ」と勉強会を評価すると共に、この様な機会をもっと広く市民に広げるためには、「一方的に情報発信するだけでなく、双方向のコミュニケーションツールとしてSNSなどを活用するのが良い」という提案がありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 勉強会（沼津駅周辺地区）第2回
グループ検討の概要【Cグループ】

第2回目は、前回の議論の振り返りとして「人が集まりたくなる、歩きたくなるような魅力的なまちづくりが大事」ということが確認されました。

沼津駅周辺地区の「交通」については、歩いて楽しいまちなかにするために歩行者優先でにぎわいを生むような道づくり、バリアフリー化、自転車道の確保があげられました。また、南北交通の渋滞の早期解決や車いすでも安全に通行できること、バスの利用が減少していることが課題としてあげられました。

「防災」については、特に駅の北側が津波対策の意識が薄く、南北一体的な取り組みの必要性が指摘されました。

広域的な視点からは、「拠点」「交流」にかかわる目標については、「沼津はすでに交通の結節点でなく商業も郊外型に移っているので、発想の転換が必要では。目指すならば、行政や文化の拠点を」「豊かな自然と都市機能が融合する魅力あるまちをつくり、文化、教育で人を集めるのがよい」「文化やスポーツ施設、特色ある公園、エンターテインメントの発信などを進めたい」「観光的には、三島と一体的な拠点として、伊豆、箱根との連携を」などの提案がありました。

「戦略」については、まず、「まちづくりの方向をひとつに絞り込むことが重要で、その上で、客観的な視点でかつ迅速な判断をしてほしい」ということが確認されました。さらに、「高架化ありきでなく、どうしたら早期に活性化の効果がでるのか、南北分断が解消されるのかという視点で考えるべき」「15年もまちが工事中であることはデメリットが大きいのでは」という意見や、「今の事業計画を活かしてより効果の上がることを考え、沼津への民間投資を引き出す視点を持ちたい」という提案がありました。

「財政と事業効果」については、「市の財政見通しは右肩上がりの予測に基づいているが、甘いのではないか」「実際は耐震面を考慮すると事業費はもっと膨らむのではないか」など懸念や疑問が多く出されました。それに対し、「失敗することばかり考えないで、投資を上回る効果をあげるという発想も大事ではないか。間接投資も含めて、大きな効果を生む可能性のある事業にすべき」という意見や、今後のステップでの検討事項として、「それぞれの代替案を選択した場合のコストや手続的なリスク、国からの補助金額の違いなどを比較したい」といった意見が出されました。

以上のように沼津駅周辺地区や広域的な視点から地域づくりの目標を議論した後、沼津駅前に求められる役割についても意見交換をしました。「これまでは大型商業施設が求められたが、今はそれでは人集めできないと思う」「文化、スポーツ施設、医療施設で人を集めて、回遊するような魅力をつくり、そこに商業もあるといい」「駅前に、緑の公園やイベントのできる広場があり、いろいろな企画で盛り上げれば、買い物客も、観光客もよろこぶ。そのようなソフトを育むハードの整備が重要だ」「駅を利用する学生や高齢者、観光客などをターゲットに考えて使いやすい駅、魅力的な駅に。バスなどを利用しやすくし、駅の利用を高める施策も必要では」「商店街の活性化については、これから高齢化などでますます車で来る人が増えると思われるので無料駐車場があるなど、駅にアクセスしやすくていい」といった意見が出されました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

沼津駅周辺地区第3回勉強会

開催概要

3月2日（土）、沼津駅周辺地区にて第3回勉強会が開催され、23名が参加しました。また、PI委員会からは石田委員長が出席されました。

冒頭で、ステップ2における勉強会のとりまとめとステップ2に関する県の成果発表までの流れを確認した後、前回は引き続き3グループに分かれて議論しました。初めに勉強会のとりまとめ案について確認し、戦略課題では賑わいは「取り戻す」のではなく「新たに創造する」という前向きな表現が相応しいといった意見が出されました。その後、ステップ3（代替素案と評価項目）に関わる議論が行われ、「地域づくりの目標」を達成し課題を解決するための方策について話し合われました。

ステップ3に関わる議論では、初めに検討する対象領域について話し合わせ、対象を沼津駅及び駅前に絞り込む以前に、駅周辺地区全体を俯瞰してゾーン毎の役割やつながりを踏まえ、その上で駅前や鉄道高架をどうするのかを議論する必要があることが指摘されました。駅前に限らない大きなゾーンの中に、食や歴史や文化に関わる施設や公園などを核として回遊性を創ることや、駅の南側のゾーンを総合的にマネジメントとして活力を生み出し、全体的に流れを生み出すとの考え方が議論されました。

その後、地域づくりの目標や戦略課題に照らした議論が行われました。駅周辺地区の「賑わい」に関する議論では、沼津駅に沼津の「顔」を作る仕掛けとして、総合整備事業で生まれる土地の共同化を図り、効率的に住宅、商業、緑地、公共施設や、健康・スポーツ施設などの集客拠点を創出するアイデアや、総合整備事業の代わりに駅の上に人工地盤を設けて広い空間を生み出すなどのアイデアが提案されました。なお、既に事業が進んでいる区画整理事業区域では、住民の移転が進んでコミュニティが壊れ、小売店なども撤退したため不便になっているなどの切実な状況を訴える意見もありました。

駅周辺地区の居住人口については賑わいの創出のために不可欠との認識を改めて確認した上で、駅前の地価が高く居住地として手が届かないのではないかと懸念や、駅周辺地区全体で居住者を増やす方が必要との意見もあり、地価負担を減らす定期借地権付住宅を活用するアイデアも出されました。

駅周辺地区や駅前の「移動性」についての議論では、歴史や食を活かして蛇松緑道や狩野川沿いを整備するアイデアや、地下に降りずにすむスクランブル交差点等の提案など、徒歩での回遊性を生み出すための様々なアイデアが話し合われました。また、駅前や中心部に歩行者・自転車の優先ゾーンを設ける提案とともに、自動車や公共交通でのアクセスも重要だという意見もありました。南北交通に関する課題については、鉄道高架化の他、道路をオーバーさせる案などの提案がなされました。

戦略課題のうち「安全・安心」に関しては、1階が店舗の中高層住宅を駅前に配置して災害時の避難場所とする提案や、地下歩道を備蓄倉庫として活用する案などが出されました。

最後に、石田委員長から、様々なアイデアが幅広く深く考えられていることが印象的であったことや、交通の問題だけでなく居住や産業などの様々な要素が複雑に絡み合っていることを改めて共有できたのではないかと、また、今日の議論の内容が個々の点（ドット）であるとするなら、それらを全体の中で位置付け、つなげて一枚の絵にしてほしいことなどのコメントをいただきました。

次回（4月13日（土））は、今回の議論を踏まえて、「地域づくりの具体的方策（代替素案）の整理」と「評価項目」について検討が行われる予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第3回勉強会 グループ討議の概要【Aグループ】

まず、前回までの勉強会の議論をもとに整理された、「ステップ2に関する戦略課題」について確認しました。「①駅周辺の賑わいを取り戻すために」では、『取り戻す』では、従前のまちをイメージしてしまう。将来へ向けて特に若い人にとっては、『創り出す』といった表現がよい」との意見がありました。「③交流を支える移動性を」では、「拠点」のあり方、さらに「駅」の位置づけについて議論があり「コンパクトシティは、駅を中心に考えていくのではないか」「在来線で考えれば、沼津駅は東部地域の拠点となるのではないか」という意見があった一方、「現状の車中心の社会を考えると、駅だけが拠点ではないことも一考の価値はあるのではないか」との意見を頂きました。

次に、戦略課題をもとに、これを実現するための方法について意見を交わしました。概ね皆さんから共通して以下の3点が出されました。

1.南北移動の円滑化について、歩行者等に関しては、まず交通弱者と言われる高齢者、子ども連れ、車椅子の方や自転車利用者などが、楽に自由に行き来できるバリアフリーの通路が必要である。さらに、歩行者と車ができるだけ交差しないつくり方を目指す必要があるのではないか。車については、緊急車両が追い抜ける車線が必要ではないか。

2.駅周辺地区が賑わうようなしかけとして、体育館はその魅力を備えているのではないか。高齢者の健康増進や、在勤者も含めた市民の利用はもちろん、県内の大きな大会などの利用も、駅に近ければ十分考えられる。大会などがあれば、外来者も増え、まちも賑わうのではないか。

3.駅の役割として「集まる」「憩う・休む」「溜まる」といったことが前回までに出ているが、現在の駅前には狭すぎる。駅前にもっと広い広場があるとよいのではないか。若い人のパフォーマンスの場所も今は狭いので、こういった利用もできるとよいのではないか。

上記を話し合う中で、さらに以下のような意見を共有しました。

南北移動の具体的なアイデアとして、自動車について「車道は現在のアンダーパスのまま幅員を広げる。その際、排水対策は十分に行う」「鉄道を高架し車道は平坦にする」「車道をオーバーパスにする」と様々な意見を頂き、今後、費用や時間なども考えながら議論することとしました。

歩行者等については、南北の行き来はもちろん、街中への移動についても配慮が必要ということで、「鉄道を高架して、人や自転車は地上レベルを移動する」「2階レベルを歩行者空間にして自動車と分け、店舗にも2階から入れるようにする」「歩行者信号をもっと長くして渡りやすくする」と様々な意見を頂きました。

「賑わいのしかけ」として、体育館については「民地ではあるが、駅南西側の土地区画整理事業エリアあたりが高架問題に左右されずよい場所ではないか」「駅から体育館までのエリアもあわせて新たな賑わいを生み出せるのではないか」、世代ごとの切り口では、「沼津は高校が多いので高校生などが街、特に駅南に来たくなくなるようなしかけが必要」「子育て世代にとっては、買い物もできて、子どもも遊ばせられる公園などがあれば、街にも来ることができる」との意見を頂きました。

また、今回は、県職員の方から、沼津駅周辺総合整備事業の経緯や進捗などの説明を受け、先行して完了している事業、現在着手している事業、未着手の事業について確認しました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第3回勉強会 グループ討議の概要【Bグループ】

地域づくりの目標を達成、解決するための空間や施策を考える際には、沼津駅や駅前に焦点を当てる前に、もっと広い範囲で考える必要があるという意見が出されたことから、Bグループでは沼津駅周辺地域を対象に検討を進めました。

第1回、第2回勉強会から引き続き、「1つの建物を建てたり、リニューアルするというレベルではなく、一定のエリアを総合的に考えてプランニングする『エリアマネジメント』という考え方が重要である」という意見が出されました。「エリアマネジメントによって魅力的な場がまず1つできれば、それが起爆剤となって周囲の地権者の意識が変わり、そういうエリアが他にも作られる可能性が出てくる、またそうなればエリア相互の関係性が生まれ機能の役割分担もできるのではないか」という考え方が提示されています。

グループ討議の意見をまとめると、地域づくりの戦略課題①、③、④について、下記の様な空間や方法、事業手法のアイデアが出されました。

■戦略課題①：駅周辺の賑わいを取り戻すために

「市街地の中心部では住宅の購入額も家賃も高額にならざるをえないため、人を住ませるとするのは現実的には難しいのではないか」という意見がありました。その一方で、「一過性のイベントでは日常的な賑わいを取り戻すことはできないので、人が住むことが不可欠であり、定期借地権の活用等の手法を使うことによって居住を可能にする必要がある」という意見も出されています。沼津駅周辺地域には既に日常生活に必要な施設が整っていることが、居住を推進する上でのメリットだと言えますが、今後は更に拡充する必要があり、今ないものを作るという視点から、土があり緑が豊かな公園、美術館、クリエイティブな活動ができる工房、社会人のための学びの場などが挙げられました。

■戦略課題③：交流を支える移動性を

「まちの賑わいや魅力の創出には『回遊性』が重要だ」ということはメンバー共通の認識でした。しかし、「回遊性を重視すると、歩行者や自転車の安全性と自動車交通の両立は難しい」「駐車場は周辺につくり、ヨーロッパの街の様に中心部には車は入れないくらいの大胆な発想が必要だ」という考えと、「子育て世代などは車でアクセス性の良さを求めている」「店舗や企業の利便性を考えると車が入れないのはマイナスではないか」という懸念とがあり、沼津駅周辺地域での自動車交通のあり方については意見が分かれました。

■戦略課題④：安心で安全な地域に

防災の視点からは、津波対策の重要性が挙げられました。地震発生後に遠方まで避難することは難しいことが予測されるので、沼津駅周辺地域の中で安全に避難できる場所が必要であり、4、5階建ての建物の下階を店舗、上階を住居にする、駅や駅前エリアに避難を考えた建物を作るといったアイデアが出されています。

また富士見町について、区画整理の網がかかっているために家の修理に手が付けられずにいることや店舗が移転し日常生活に支障が出ていること等の切実な現状があり、地区の住民であるメンバーから「4車線の広い道路は必要なく、2車線の車道と歩道があれば十分。車両基地は移転し、まちづくりに使って欲しい。区画整理は必要ないので網を一刻も早く取って欲しい」という強い要望が出されました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第3回勉強会 グループ討議の概要【Cグループ】

討議に先立って参加者から、「この場は、市の都市計画やまちづくりの話をする場ではないので、中心市街地全体のことを話し合うことは無駄ではないか。もっと、高架事業に関わる部分について話をすべきではないか」というご意見が出されました。一方、この意見に対しては「この場では、ひとつの代替案として、駅前の区画整理事業をより効果的な事業にする提案をしたい。そのためには、沼津駅周辺も含めた地域づくりの戦略について議論する意義があると考えている。」といった意見が出され、議題に沿って議論を始めることとなりました。

第1回、第2回にて議論した「地域づくりの目標」を実現する方法として、「駅前に新たに沼津の顔となる緑のゾーンをつくるのが効果的ではないか」という提案がありました。これは、主に、文化施設やスポーツ施設があり観光的にも魅力的な緑地、沼津駅の南側の味わいのある町の散策拠点となる緑地、人々が集まって憩え、イベント広場としても使える、などの機能を満たすゾーンとして提案されました。この緑地を確保するには、大きなまとまった土地が必要ということで意見が一致し、以下の3つの具体的な場所の候補があげられました。

1. イーラ de の西側の区画整理予定地(約3万㎡):ここに魅力的な広場が生まれれば、駅南が活性化する。駅から蛇松緑道沿いに港まで散策道をつなぐ場所にもなる。区画整理区域の地権者の話し合いはすでに始まっているが、この機会に共同化などをして魅力的なゾーンを生み出すように提案したい。住宅を共同化して緑を増やせば、周辺も住宅地として付加価値がついて人気が出るのではないか。

2. 沼津駅の線路の上にふたをかけて土地を生み出す:ペデストリアンデッキで南北の回遊路や緑豊かな広場を生み出せるとよい。ただ、駅の上はJRの土地になるので調整が可能か疑問。

3. 富士見町車両基地跡に大きな公園をつくる:この場所に、体育館、美術館も併設した文化ゾーンができるとよい。ただ、街の回遊拠点にはなりにくい。

さらに、沼津駅周辺は、特に駅南側の街の歴史を活かして観光の魅力をアップしたいという意見があり、「狩野川+中央公園+旧東海道のゾーンを魅力アップすれば、駅からの回遊性が生まれる」「アーケード街の周囲に、観光客が楽しめる特色ある飲食店、魚を食べられる店が充実していくとよい」「観光案内、バスの起点は南口に必要」などの意見が出されました。

交通については、道路の渋滞が沼津市の衰退の一因になっているといった意見があったがそれほど実感しない、国道414号のオーバースペースだけで解決するのではないかと、といった意見が出されました。

歩行者、自転車の移動については、「フラットであるに越したことはないが、そのために何百億も投資する必要はない。他に目的がないとしたら、バリアフリーのためだけにすべきではない」との意見がありました。駅へのアクセスをよくするための駐車場については、現在整備されている駅前の駐車場が使いにくい、週末一時的に混雑するケースもあるなどの現状が共有された上で、駅周辺に民間の駐車場が増えており駅前に新たに必要ないのではないかと、といった意見を頂きました。

住宅については、駅周辺や駅前には特に高齢者からニーズがあり民間がどんどんつくっているという現状があり、子育て世代は地価や家賃が高く、駅前や駅周辺に住宅ができて住みにくいのではないかと、といった意見があった一方、子育て世代からは周辺に緑が多い住環境に魅かれるという意見を頂きました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

沼津駅周辺地区第4回勉強会

開催概要

4月13日（土）、沼津駅周辺地区第4回勉強会が開催され、24名の方が参加しました。

初めに事務局から、ステップ2の成果「地域づくりの目標」が策定されたこと、および、ステップ3に正式に移行したことについての報告がありました。引き続き、ステップ3の議論のために今回事務局が作成した評価項目（案）について説明があり、参加者全体で討議がありました。評価項目（案）の根拠や妥当性を問う意見の他、自動車や自転車の集まりやすさも重要であるとの意見、また、歩行空間の快適さを駅周辺地区の範囲で評価したいことなどについて意見が出されました。

次に、戦略案（代替素案）については、事務局が作成した3つの案（①総合整備案、②個別対応案、③趨勢比較ケース）についての説明の後、グループごとに議論が行われました。各グループとも、どのような戦略案（代替素案）にせよ、地域づくりのランドデザインが必要であることや、ハード施策のみならずソフト施策が重要であるとの認識が示されました。また、それぞれの戦略案（代替素案）に係る事業費や事業期間や事業主体を明らかにし、精度の高い議論を行いたいとの提案がありました。

①総合整備案については、現在進行中の土地地区画整理事業で生み出された土地の使い方が魅力的でないとの意見や、今後着手するのであれば共同化を図るなど市民を巻き込んだマネジメントを行い、そのことで駅前にランドマークとなる空間を設け、既存の施設や周辺地域と合わせて魅力を生み出すことが必要との提案がありました。また、駅前だけではなく駅周辺においても、地域づくりの目標に向けた整備が必要であることが各グループから共通に指摘されました。その他、総合整備案については、駅前の開発が既存商店街を衰退させる要因にならないかの心配や、15年後にならないと効果が表れないのは困るとの懸念、仮設の自由通路や土地地区画整理事業など段階的な対策を検討したいとの提案が出されました。

②個別対応案については、現道の改良で十分な路線や、オーバース（跨線橋）が不要な路線を指摘する意見が多く出されましたが、オーバースの延長をさらに延ばす提案や幅員を広げる提案もありました。また、個別対応案に対して、オーバースが市街地の新たな分断要素になるとの指摘や、特に歩行者や自転車の回遊性を確保する視点からは課題があること、また、オーバースに必要な土地の地権者と交渉が難しいのではないかとといった問題や、すでに確保されている片浜の車両基地用地の扱い等の課題が指摘されました。また、沼津駅の新たな魅力をつくるため、橋上駅を単に歩行者や自転車が通れるだけの施設とするのではなく、人工地盤の上に緑地や商店街を設け、南北の市街地を繋いだらどうかといった提案もありました。

比較のための③趨勢比較ケースに関する議論では、駅南北地区の結節と商業活性化は沼津にとって不可欠であることや、膠着状態のまま結論が先送りされることは最も避けるべき状況であるとの認識が共有されました。

この他、多くの市民はこの問題に関して無関心であり、重要な問題として捉えていないのではないかという意見や、新中川の治水対策は早期に着手する必要があること、車両基地や貨物駅を移転しつつ高架化はしないという案があり得るのか検討してほしい、という意見がありました。

次回（5月11日（土））は、引き続き評価項目と戦略案（代替素案）について議論する予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P Iプロジェクト 沼津駅周辺地区第4回勉強会 グループ討議の概要【Aグループ】

グループでは戦略案（代替素案）について、これまで共有してきた「地域づくりの目標」「地域づくりのポイント」に照らし合わせながら、賛否ではなく、どのようにしたらより良い案になるかに焦点を当てて意見を交わしました。皆さんから以下の4点が概ね共通した意見として出されました。

1. どのような案になるにしても「駅周辺や近辺の人だけでなく、沼津市民にとって効果のある計画、来たくなるような計画にしたい」「南北の行き来や駅周辺の回遊性はもちろん、ソフト・ハード両面からの整備で、まちの魅力づくりをすることが必要」「駅南口にも路線・観光バスの停留場が必要」また、「戦略案（代替素案）を考える上で、費用や時間の観点を外しては考えられない」

2. ①総合整備案については、「駅前だけの整備では、地域づくりの目標に届かない」「駅周辺も含めた「まちの魅力づくり・イメージアップが必要」

3. ②個別整備案については、「目標を具現化するには、取得済み用地の活用策や、新たな接続道路の整備が必要になることから、費用や工期の観点も入れて考える必要がある」「南北の行き来は重要であるが、費用・回遊性などを考えると、オーバースは必要最低限とする」

4. ③趨勢比較ケースについては、「目標を具現化するには何らかの対策が必要。このままでは土地区画整理事業が途中で止まり、まち全体がさらに衰退してしまう」

目標を具現化する手法については、さらに以下のような様々な意見が出されました。

①総合整備案では、「高架化と土地区画整理事業などを総合的に整備することによる投資効果は、より広く俯瞰的にとらえると有用である」「オーバースの個別整備案よりも影響を受ける人は少ないのではないか」「来街者にとっては、駅を中心とした景色が街のイメージになるので、駅前の整備は有用である」という意見がある一方、「歩いては来られない距離に住む市民にとっては、駅地下などに大型駐車場があるほうが魅力的である。そのほうが来街者も増えるのではないか」という意見を頂きました。また、前回も出ましたが「点在している公共施設を駅前に集約できるとよい。特に体育館は来街者も増えるのでまちの魅力づくりに一役買える」という意見を頂きました。

②個別整備案では、「新たな接続道路や側道の整備などで生まれる新たな地権者対応に、総合整備型より時間と費用がかかるのではないか」「オーバースでは歩行者・自転車・障がい者の移動は大変なのではないか」との意見が出されました。また、必要最低限のオーバースを考えるにあたり、「まちの景観から見て、どの程度が沼津にふさわしいのか検討する必要があるのではないか」「今後の橋の架け替えなど、基盤整備の改修をにらんで、オーバースの箇所や範囲を選んではどうか」「総合整備案と同等の時間や費用の中でできることを考えてはどうか」「駅の自由通路も人・自転車が通れるようにしたい」と様々な観点から意見を頂きました。さらに、「オーバースにせず、現在のアンダーパスの幅を広げるのが簡単なのではないか」との意見も頂きました。これについては事務局より、ユニバーサルデザインの観点などから、道路勾配を緩くする必要があるため、幅だけでなくアンダーパスの前後も改修する必要がある旨の説明がありました。

以上、都度、「地域づくりの目標」に立ち返りながら議論が行われました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第4回勉強会
グループ討議の概要【Bグループ】

戦略案を検討するにあたって、「事業の完成までにどのくらいの時間がかかるのか、特に人の南北の行き来ができるようになるまでに何年がかかるのか、予算はいくらで誰が負担するのかということがわからないと、詰めた議論ができないのではないか」という意見が出されました。①総合整備案でも②個別対応案でも、「全体的なまちのランドデザインがないままにハードの整備を進めるのは問題」というのはメンバー共通の考えでしたが、そのランドデザインのイメージや地域づくりの目標達成に向けた手法については意見が分かれています。「人口減少や高齢化の社会的なトレンドを踏まえ、本当に必要なものを選択して、地方都市の身の丈にあった現実性と独自性のあるプランを」という考えがある一方で、「人口を増やすことも考え、住む人、特に若い年代にも魅力的な商業、オフィス、住居が複合したまちを、駅前にランドマーク的に創出してはどうか」という考えも出されました。

各戦略案に対しては下記の様な意見がありました。

①総合整備案

沼津駅周辺総合整備事業によって生まれるまとまった土地を活用して、「駅前に商業、オフィス、住宅が複合したランドマークの様な場ができれば、若い人にとっても魅力的で駅周辺への波及効果も期待できる」という期待もありますが、「実際には駅前にふさわしいとは思えないものもできており、総合的に整備されていない」「結局ビルが乱立し、魅力的な施設も入らない、デザイン的にも機能的にもちぐはぐなものになってしまうのではないか」という懸念も出されています。それ以外にも、「総合整備事業の範囲だけを整備していてもだめで、駅周辺を含めて再開発や建物の共同化を進め、一体的に整備する必要がある」「南北の行き来ができないという問題が高架が完成する15年先まで解消されないというのは問題」との指摘がありました。

②個別対応案

本当に必要なものかを考えた上で整備メニューを絞り込み、「立体化する必要があるのは三つ目ガード」、「あまねガードは現状のままアンダーとし、線形を真っ直ぐにしたり、拡幅する」といった提案がされました。三つ目ガードを立体化する際には、渋滞緩和の視点から、「南は市役所前まで、北も国道1号あたりまで延長できると良い」という意見がありました。また、東部拠点第2地区の土地区画整理事業を見直すのであれば現状を放置せずに早期に対策をし、「平町岡一色線は2車線片側歩道で整備して欲しい」との要望が出されています。

「橋上駅はJRの問題なので早急に作る必要があるのは自由通路」であり、「自由通路は例えば上野駅にある様な幅の広いものを」という提案もされました。

③趨勢比較ケース

この案は今の沼津市の状況そのものであり、「次の世代にまちづくりの結論を先延ばしにしてしまうため、更に人口が減って活力が下がり、コンベンションセンターが負の遺産になってしまう危険性もある、避けるべき案である」ということで意見が一致しました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第4回勉強会 グループ討議の概要【Cグループ】

評価項目については、示された項目には概ねこれでよいということでしたが、予算の見方についてのみ、「市の財政が、税収アップを前提としているので、無理があるのではないか」という意見が出されました。戦略案について、ここでは事務局がたたき台として示した3つの戦略案について、それぞれ改善点や課題を出し合いました。

①総合整備案

駅南第1、第2の土地区画整理事業では、「共同化などで新しい魅力づくりのタネ地となる公共用地を生み出せなければ活性化への効果が薄いのでは」「効果をあげるためにはマネジメントを上手にやって公共空間を生み出すような事業手法が必要」という意見が出されました。それにより生み出された土地には、沼津の魅力の核となるような公園（魅力的な緑地＋文化施設）をつくり、駅北（コンベンションセンターなどが立地）と南（限界性のある町、港、川につながる）の回遊性の起点としていくことが重要だという前回までの提案が再度確認されました。

また、15年経たないと事業効果が得られないということではなく、段階的に効果が上がるような事業計画が必要であるという点も共有されました。これについて、「JRと協議して今の跨線橋を行き来できるようにする」「土地区画整理事業を先行し、上記の公園を沼津の新しい顔として活性化の起爆剤とする」などの具体策が出されました。

またこの計画の課題として、「駅にJRの所有する商業の一等地が生み出されると、地元の商店街は打撃が大きすぎる」という意見もありました。

②個別対応案

南北道路のオーバースパスについては、平町岡一色線、三ツ目ガードだけでよいのではないか、という意見が多く出されました。あまねガードについては、オーバースパスにしたいが、それではまちが分断されるという懸念があり、いずれかの案にはまとまりませんでした。また信号機を改変することで渋滞はずいぶん緩和されるのではないか、これについて検討して欲しいという意見が出されました。

駅の跨線橋のイメージ図については、「つまらない高架橋ではだめ。線路上に人工地盤をつくって、魅力的な緑地と商業モールなどを生み出したい」「歩いて楽しい、憩いの場となるデッキにすることで、沼津の都市の新しい顔をつくる」「スロープをループさせるなどして人の行き来できるデッキにしたい」というご意見が出されました。

③趨勢比較ケース

「何もしないということはありません」「少なくとも南北の行き来ができないと困る」という意見が共通して出されました。

また、Cグループでは、その他の案として「車両基地と貨物駅を移転して、高架をしない案というのも考えてほしい」という意見がありました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容等をファシリテーター及び事務局がまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

沼津駅周辺地区第5回勉強会 開催概要

5月11日(土)、沼津駅周辺地区第5回勉強会が開催され、24名の方が参加し、「評価項目と戦略案(代替素案)」についての議論が行われました。

冒頭、事務局から以下のような説明がありました。前回の勉強会にて、ステップ3の検討内容である「評価項目」及び「戦略案(代替素案)」の案が提示されたことが拙速ではないかとの批判があったが、それぞれの案は、ステップ2「地域づくりの目標」やオープンハウス・車座談議等からの多様な意見を踏まえて、PIプロジェクト全体の時間管理を行う観点から「たたき台」として示したものであり、勉強会においては他の参加者の意見を聞きながら活発な議論を期待する、というものです。

この後、ファシリテーターに運営が一任され、まずは、評価項目(案)について、前回の議論を踏まえた修正案が事務局から提案されました。全体及びグループ討議では、重視したい評価の視点として、県東部地域の拠点となりうるか、事業費、事業期間、実現可能性などが挙げられ、これらの評価指標は目標値も含め専門家だけが設定するのではなくPIプロジェクトにおいて市民が議論することの必要性が確認されました。また、評価項目は「地域づくりの目標」を踏まえて幅広い視点から設定するが、あくまでもPIプロジェクトでは高架事業について予断ない検討を行うことが中心的な議題であることが確認されました。

次に、戦略案(代替素案)については、前回の議論を踏まえて追加した2案を含む計4案(A-1総合整備型第1案、A-2総合整備型第2案、B-1個別対応型第1案、B-2個別対応型第2案)が議論のたたき台として示されました。参加者から、前回自らが提案した内容とは異なる案が提示されたとの意見がありましたが、これについて事務局から、戦略案(代替素案)は必ずしも多数ある全ての個々の提案を踏まえたものではなく、議論しやすいよう総合してたたき台として提示しているので、さらに提案があればぜひ積極的に議論をしてほしい旨の回答があり、これを受けてグループごとに議論が行われました。

まず、事業期間について、今回示された戦略案(代替素案)ごとではなく個々の事業ごとに示されることで4つ以外の戦略案(代替素案)も検討したいとの要望がありました。

A-2総合整備型第2案(前回提示されたA-1総合整備型第1案に対する提案・意見を追加したもの)については、土地区画整理事業に加え共同化の手法を用いてまとまった土地を生み出し、体育館や高度医療施設など広域からの集客が期待できる施設を整備する可能性があることがメリットであるとの認識が示されました。この案については、理想的な整備案を積み上げたもので実現性が低いのではという疑問がある一方で、ステップ3では理想的な将来像を描くことが予断のない検討の一環であるとの意見がありました。

B-2個別対応型第2案(前回提示されたB-1個別対応型第1案に対する提案・意見を追加したもの)については、鉄道ではなく南北幹線道路をオーバーパスにすると威圧的であり景観が悪化する、街の新たな分断につながるなどの理由から、それぞれの幹線道路について、現状のままとする、オーバーパスとほしなが何らかの改修を行う、交通容量をとるためにオーバーパスとするなどの方法が議論され様々な提案が出されました。また、歩行者・自転車の回遊性を確保し、駅前及び駅周辺に市民や観光客が集まる施設とそのための土地を確保する観点からは、駅の自由通路をより幅の広いペDESTリアンデッキとして整備する案や駅前広場の拡充整備などがあらためて提案されました。

次回(5月25日(土))は、原地区勉強会との合同開催となり、戦略案(代替素案)及び評価項目について、両地区及び広域的な視点から検討を行う予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第5回勉強会 グループ討議の概要【Aグループ】

今回からグループ編成が変更されたので、まず自己紹介を行いました。また、議論に先立ち、前回から非常に資料が多く内容も盛りだくさんでその場で読んで理解するのは難しいため、出来るだけ解りやすい資料の作り方をしてほしい、との要望がありました。

続いて、前回の意見を踏まえて修正した『評価項目（案）』についての議論を行いました。今回の案の修正は、「評価項目」だけでしたが、合わせて掲載している「地域づくりのポイント」について、あらためて読むと、「地域づくりの目標」から整理するに当たって省略しすぎているのではないかと、この意見が出されました。また、いくつかの「評価指標」については、駅500m圏内、駅1km圏内といった範囲を限定することでその圏内だけを捉えているように見える、沼津をどのようにするかを話しあってきたのであるから、もっと広い範囲で捉えたいという指摘がある一方で、あくまでも代理指標であり、整備効果や事業期間、コストについて比較検討する材料として捉えれば圏域の設定は必要という両方の意見がありました。

次に「戦略案（代替素案）」の検討に移り、主に、4本のオーバースパスを整備する点が特徴であるB-2 個別整備型案について、より良い案にするための改善点に焦点を合わせながら、概ね以下のような議論を交わしました。

まず、人の行き来や景観の視点から、オーバースパスではなくアンダーパスの改良が望ましいとの意見がありました。具体的なアイデアとしては、車線を確保するためにアンダーパスの拡幅が提案されました。ただし、これは、技術的に難しい点もあることから、事務局に対してさらなる技術検討が要望されました。もし、オーバースパスを整備するのであれば、国道414号の三ッ目ガード1カ所とすれば県の国庫補助事業となり、市財政への負担が軽くなるという意見や、駅北口に集客施設ができることで交通量の増加が想定されるため、その対応策として、まず三ッ目ガードを4車線のオーバースパスにしたらどうか、といった改善案が示されました。また、渋滞解消のため車線数を確保する方策として、アンダーパスまたはオーバースパスを自動車専用道路にし、歩行者・自転車・障がい者等のための複数の自由通路を整備する提案もありました。

次に、まちの魅力づくり・イメージアップの視点から、駅・駅前には人が寄りつけるパブリックスペースを生み出せないかという議論がされました。JRとの新たな協議が必要となるが、鉄道施設を集約することで、土地や人工地盤といった空間を生み出せないか、遠方からの沼津市民も便利に使えるよう送迎に利用できる車寄せを確保したい、などのアイデアが出されました。なお、これらのアイデアは、A-2 総合整備型第2案にも共通するものとして出されました。さらに、こちらもJRとの協議が必要となるが、現車両基地を新車両基地に移転し、その跡地を居住エリアとして整備できると、住民の移転問題も解決でき、駅前に新たな魅力を生み出せるのではないかとといったアイデアがありました。

以上、技術的に難しい面があることは理解するが市民ではその判断は出来ないため、まずは、望ましい駅前及び駅周辺地区について具体的なアイデアを出し合いました。

また、どのような案になるにしても、駅周辺の人だけでなく、沼津市民にとって効果があり魅力的な計画であること、さらに、早く、安く、効果の出る計画にしたいとの視点が示されました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 沼津駅周辺地区第5回勉強会 グループ討議の概要【Bグループ】

各案の概算事業費や事業期間、目標に対する効果の比較等のデータが提示されたことには一定の評価がなされましたが、資料が多く複雑なのでもっとシンプルにわかりやすくできないかという意見がありました。また、戦略案（代替素案）全体ではなく個別の事業ごとの事業期間や事業の優先順位を踏まえた工事のロードマップなどを提供して欲しいという要望も出されました。また、提示された戦略案（代替素案）4案については、たたき台としては理解できるが、それらの過不足を更に精査するには、要望した様な新たなデータが必要だという意見が多くありました。

新たに追加されたA-2案、B-2案については、下記の様な意見交換がなされました。

A-2 総合整備型第2案

新体育館やアーケードなどが新たに追加されたことについては、現段階では実現性や事業費は深く考慮せず、まちのためにあったらいいなと思うものを挙げれば良いという考えがある一方で、限られた予算の中で多くのことはできないのだから、いろいろ加え過ぎずに本当に必要な物を早い段階で精査する必要があるという意見も出されています。駐車場の整備についても、バスの本数が少なく自家用車で来る以外の方法がない人達のことを考えると駐車場整備は必要だという考えと、中心市街地の駐車場は数的には足りているので運用を工夫すれば賄えるし、まちなかを快適に歩ける様に公共交通を充実させてなるべく車は使わない方向性を目指すのが良いという異なる方向性が示されました。

B-2 個別対応型第2案

B-1案と比較すると、オーバーパスの数が減っていますが、更に絞り込むことができるのではという意見が多く出されました。

のぼり道ガードは、夜間の通行の不安を無くすため街灯を整備すれば特に不便はないので現状のままで良いとする意見が多くありました。三ッ目ガードのオーバーパスについては、計画されている延長では三園橋付近の渋滞緩和にはつながらないので、延長してオーバーパスを整備するか、アンダーパスのままで信号間隔の変換や一方通行の規制によって渋滞解消を図るなどの改善案が出されました。

あまねガードは、オーバーパスにするより事業費が低いと思われるので線形や幅員の改修をするだけで良いとする意見がある一方で、改修工事に行き来ができなくなることで衰退している商店街に更にダメージを与えるかもしれないという不安の声もありました。オーバーパスにしなくても、自由通路を整備すれば自転車や歩行者の通路は確保できるので、その点から考えると南北自由通路の幅員は30mではなく50mは必要ではないか、さらに自転車用のエスカレーターもあると良いというアイデアが出されています。

個別対応型の案を実現化するには都市計画変更を行う必要があるため、その手続きだけで何年もの年数がかかり、事業期間が長引くのではないかという懸念が出されたため、事業の優先順位に対する関心が高まりました。都市計画決定をしなくて済むように自由通路をJRと協議して最優先に整備する、自由通路とオーバーパス1か所ならば同時に整備を行うことは可能ではないかとの意見がありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 沼津駅周辺地区第5回勉強会 グループ討議の概要【Cグループ】

評価項目に関連して、冒頭、参加者から、これまでの議論ではテーマがまちづくり全体に広がり過ぎていて、沼津高架PIはあくまで高架事業や駅のありかたに絞って検討をすべきだという問題提起があり議論がされました。もちろんPIの中心的な議題は高架事業や駅のあり方であるが、それを検討するにあたっては、南北交通の問題解消だけでなく、沼津駅周辺の活性化を考えることも重要であることを確認しました。次に、「評価項目」そのものについて、評価指標や数値的な達成目標は、専門家が決めてほしい、というご意見が出ましたが、今回のPIではその達成目標をどの辺りに設定するか、しないのかについても市民が検討していこうという確認をしました。

次に、戦略案（代替素案）について議論を行いました。鉄道高架化を含む総合整備事業を行う A-2 総合整備型第2案については、活性化のためには集客性のある施設のための土地を生み出すことが重要という指摘が改めてされました。具体的には、駅南第二地区土地区画整理事業区域には新体育館、拠点第一地区土地区画整理事業区域には高度医療が可能な専門病院など、広域から人を集める施設が駅前ある必要性を強調する意見がありました。これに関連して、これまでに実施された土地区画整理事業や再開発事業は、魅力に欠け集客に結びついておらず、沼津の魅力発信に結びついていないので、今後新たにそのような魅力づくりが行えるのか不安であるという指摘がありました。

総合整備事業を行わない場合の B-2 個別対応型第2案については、駅の南北をつなげる施設は単なる通路ではなく「ひろば」として機能させたいという提案が出されました。緑地やイベント広場として活用し、南北の回遊性の核となるような場所を生み出したいので、そのための広さが必要であるという意見の方が多かったようです。合わせて、郊外のショッピングセンターのような魅力的な商業施設を整備すれば広域から人を集まるのではないかと、という意見があった一方で、よくある駅ビルとして整備するのではなく個性的な広場にしたい、という意見が出されました。

南北道路については、オーバースペースやその他の手法を使って、改善が必要なのは三ツ目ガードだけで、あとはオーバースペースの必要はないというご意見が共通して出されました。あまねガードについては、駅に広いデッキができるなら自動車専用道路にするという提案と、現状のまま、歩行者・自転車も通れる方がいい、という両方の意見がありました。また、コンベンションセンターのオープンに合わせ、駐車場 800 台分の車が駅周辺に入ってくる場合、これらをどう受け入れるのかという視点から道路計画を考えておく必要があるのでは、という指摘がありました。

歩行者等の交通については、コンベンションセンターがオープンするので、すぐにでも駅南北を自由に行き来できる方法を具体的に考えてほしいという意見が多く出されました。

また評価の視点、検討の材料として、どの案にしても、個々の事業の事業期間、段階的にどのように効果が上がるかを示してほしいという要望がありました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況迅速にお伝えするために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

原地区第 1 回勉強会

開催概要

2月9日（土）、原地区にて第1回勉強会が開催されました。鉄道高架化や貨物駅の移転問題に関心のある団体等から推薦頂いた13名が参加した他、PIプロジェクトを監視・評価するPI委員会から委員2名が出席しました。

今回は原地区において初めての勉強会のため、最初にPI運営事務局から、鉄道高架事業の概要と進捗状況、PIに至るまでの原地区の近年の状況、沼津高架PIプロジェクトの目的やプロセス、勉強会の進め方等について説明がありました。

その後、原地区勉強会においても中立的な第三者的立場で進行を行うファシリテーターに会議運営を一任し、前半・後半に分けてグループ毎に意見交換を行いました。

前半の進め方についての議論では、若者や女性など多様な人々に関心を持ってもらいたい、事業に賛成反対ということではなく地域づくりについて話し合いたいといった期待や、市も参加すべきではないか、勉強会の到達点は既に決まっているのではないかと、といった進め方への懸念が出されました。

後半の地域づくりの目標に関する議論では、これまでに寄せられている原地区の地域づくりの目標を材料に、「暮らし」「交流」「産業・雇用」「交通」「防災」の観点から意見交換が行われました。

「暮らし」については、ただ静かにのんびり暮らすということではなく、積極的に対策を講じて地域の活性化を進めていくべき点で共通の認識が示されました。また、生き物が暮らす場所と人が暮らす場所との住み分けが必要だといった意見も出されました。

「交流」については、スマートインター等の整備の機会を活かし、原地区とこれらをつないで他地域とのネットワークを考える事が必要だというアイデアや、「産業・雇用」を促進する観点からは、山側は地盤が良く産業施設の誘致も良いかもしれないが、海側ではまず地盤の悪さを克服すべきこと、工場誘致ではなく寺町などの観光資源を活かした地域おこしが必要といった意見が出され、地域を観光客が散策してお土産を購入するといったイメージや、都市部と連携した体験農業や市民農園などのアイデアも出されました。

「交通」面では、原地区内の南北交通の不便さや東西交通の渋滞など、交通ネットワーク上の課題とともに、車に乗らない人や子育て世代にとっても暮らしやすいまちづくりが必要との意見もありました。

「防災」については、津波対策だけでなく、産業・雇用関連でも出されていましたが住民にとっては放水路の整備や液状化対策が優先課題だといった意見が出されました。

閉会の前には同席されたPI委員から、参加者の郷土に対する熱い想いを強く感じたことや、若い人や女性などにも議論の輪を広げるといった視点を大切にしてほしいことなどをお話しいただいた他、傍聴者への配慮などの運営上の指摘がありました。

次回（3月9日（土））は、引き続き地域づくりの目標を話し合い、さらに広域的な視点についても検討する予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P Iプロジェクト 原地区第1回勉強会

グループ討議の概要【Aグループ】

勉強会の進め方については、この勉強会は賛成・反対という意見を言い合う場ではなく、原のまちづくりや将来像について話し合う場だという認識を共有しました。そのため、もっと若者や子育て世代、女性の参加が必要だという意見が多く出されました。各自治会に推薦してもらったり、小中学校PTAや農業の人などにも積極的に声をかけて入ってもらう、コミュニティ推進委員会の広報に内容を掲載して関心を高めてもらう、などの具体的な提案が出されました。

また、次回の議題が事前に分かっていたら周囲の人の意見を聞く事もできるので、事前に知らせたいという要望が出されました。

地域づくりの目標については、まず原地区は、豊かな自然と歴史的な環境があり、農業があり、なにより富士山を背景とする景観のすばらしさが自慢できると、口々に声が上がりました。

そしてこの地域は、このすばらしい資源を活かした活性化を考えていくべきである、東駿河湾環状道路、新東名のスマートインターチェンジ、原駅前等の整備が大きなチャンスであるという認識でみなさん一致しました。

『暮らし』については、「地域づくりの目標」の中の「静かな暮らし」という表現は、活性化は必要ないとも読み取れるので、「静か」は不要だということになりました。

『交流』や『産業・雇用』といった活性化の内容については、主に観光、医療、交流による農業振興が挙げられました。たとえば、「集客するためには人を呼ぶ目玉が必要だが、原は環境、風景、歴史などが目玉である。活性化のためにまずはそれらの保全と魅力アップに取り組みたい」「原駅を起点とする散策路をつくり、寺町の観光と商業を結びつけてはどうか」「ファルマバレー構想もあるので、健康文化タウン建設や医療施設の誘致を進めたい。体だけでなく心も癒す療養施設なども考えられる」「農業体験、市民農園、農村交流のしきみをつくることで、農業を継続させていきたい。」「国道1号沿いに「道の駅」をつくり、特産品販売や観光の起爆剤にしたい。」「磯釣りに来る人も多いので、原駅の南口からアクセスしやすくできるとよい。」「たくさんの人を集めるために、グラウンドなどスポーツ施設をつくってはどうか。」など、具体的なアイデアが提案されました。また、「山側には工場などを誘致できる土地がある」という意見もありました。

『交通』については、活性化のためには道路整備の必要性があるとして、駅からの南北道路が繋がっていない、東西を結ぶ国道1号の渋滞等が課題としてあげられ、散策路の整備の提案も出されました。

『防災』については、「原の最大の弱点は水害のリスクなので、沼川新放水路の整備を早くして欲しい」という共通した意見が出されました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第1回勉強会

グループ討議の概要【Bグループ】

勉強会の進め方については皆さんから「いろいろな考えの人がいるが、まずは私たちの郷土である原をよくするにはどうしたらよいか、どのような原にしたいかを話し合おう」という積極的なご意見を頂きました。「原の地域づくりを話し合うのに、貨物駅の説明はいらなかったのではないかな。結論ありきではないのか」「今日出された意見は、どのように扱われるのか」「連合自治会への働きかけや、女性の参加など、もっと幅広い参加が必要ではないか」「関係団体である沼津市がこの会場に来ていないのは問題ではないか」というご指摘がありました。なお、最初の県の説明で、「市民団体の活動経緯も記載されたことは評価、感謝するが、内容が間違っているので訂正をしてほしい」との指摘があり、県からお詫びと訂正がありました。

地域づくりの目標については、概ね皆さんのご意見として、以下のようなご意見が出されました。

『暮らし』については、「のんびり暮らしていると、無秩序な開発が進んでしまうようで、積極的にまちに関わるような暮らしがあってもよいのではないかな」「地域資源である自然環境や景観を保全するためにも、『人が暮らすエリア』『生きものや景観を保全するエリア』『産業など開発をするエリア』など、住み分けを考え、原駅周辺は歩いて暮らせるような、原版コンパクトシティを考えてはどうか」「スマートインターの開通とそれに伴う道路整備の話が進む中、ランドデザインがないまま沿道開発などが進んでしまわないように計画づくりが必要」との意見がありました。

『交通』については、「車の運転をしない・できない世代の移動手段を確保（バスなど）するとともに、日々の生活は歩いて済むようなまちを目指すことで、暮らしやすさに繋がるのではないかな」との意見がありました。『産業・雇用』については、「スマートインターの開通と併せた、計画的な新設道路の沿道整備や、原の資源である「農」文化や、「寺町」文化への誘いが、産業・雇用に繋がるのではないかな」との意見がありました。また、「超高齢化に向かっている現状を踏まえ、定住と雇用をセットで考え、若い人が住んで働けるようなまちを考えることが必要」「県の施策にそって、新たな産業（福祉・健康など）を考えてはどうか」といった提案があった一方、「企業の撤退がある中、地元を呼ぶのは難しいのではないかな」との懸念も示されました。

『防災』については、「旧東海道の北側の広い範囲で、冠水被害がある。この問題の解決が暮らしやすいまちに繋がるが、放水路整備には時間もかかるので、その間の対策も必要」との意見を頂きました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架PIプロジェクト

原地区第2回勉強会

開催概要

3月9日（土）、原地区にて第2回勉強会が開催されました。前回と同様に鉄道高架化や貨物駅の移転問題に関心のある団体等から推薦頂いた13名に加え、今回より原地区コミュニティ推進委員会から3名が参加して活発な議論が交わされました。

冒頭、第1回勉強会で配布の要望のあった統計データについて、説明がありました。続いてグループ別に議論が行われ、前半では広域に関するテーマについて、後半では原地区の地域づくりの目標と戦略課題について話し合いが行われました。

広域に関するテーマのうち、東部地域の拠点形成についての議論では、沼津だけで拠点が形成できるわけではないのではないか、沼津と周辺都市がそれぞれの特徴を活かして連携する発想が必要ではないか、といった意見が出されました。広域における「交流」については、スマートインターチェンジの整備を契機として、地元の特産品販売に関わる物流拠点を整備して雇用創出や活性化を期待する意見や、物流だけでなく人の交流拠点という視点が重要といった意見が出されました。「防災」に関しては、復旧や復興に備え鉄道と道路の両方につながっていることが必要であることや、避難路としての道路網を考慮しておくことなどが提案されました。地域づくりの「財政と事業効果」については、今後税収が減少する可能性や長期的な費用対効果を考えて投資すべきという意見、また、子育て世代が住み続けられるかという視点が重要といった意見が出されました。「進め方」についての議論では、まちづくりなど計画の検討では地元意見を反映してほしいことや、県と市の連携をきちんとしてほしいといった意見が出されました。

後半での地域づくりの目標と戦略課題に関する議論では、原東部地区と原西部地区では状況や課題が大きく異なり、それぞれに適した戦略が必要であることや、開発されていない原西部地区についてはしっかりと構想していくことが必要との意見が出されました。基盤づくりにおいては、治水対策が最優先課題であり早期の対策が必要との意見や、東駿河湾環状道路の整備に伴う交通量への対処は、広域的に解決する必要があるとの意見が出されました。交通面では自動車の視点に偏らないで原駅を玄関口とした考え方も必要との認識も示されました。また、賑わいを生む戦略として、観光だけでなく健康・福祉の面からも来街者を集めたいといった意見が出されました。なお、今回の整理のように、戦略的に考えていくことが重要との指摘がありました。

最後に、全体ファシリテーターより参加者へ問いかけがあり、原地区の地域づくりの目標は概ね共通認識となった事が確認されました。

次回（4月20日（土））は、ステップ3に移り、より具体的な内容について検討を行う予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架PIプロジェクト 原地区第2回勉強会

グループ討議の概要【Aグループ】

今回の勉強会では、「地域づくりの目標」について、沼津市全体や広域に関わる内容について話し合いました。

このうち『拠点』については、沼津は三島や富士と連携し、集合体として「東部の拠点」を形成することで活性化を進めること、また、原地区についても沼津市のはずれという発想ではなく、集合体の一翼を担う地域として、特色や個性を発揮し発展することを目指したいとの考え方が示されました。

次に『交流』については、東駿河湾環状道路や新東名のスマートインターチェンジ等の整備に伴って、自動車でのアクセスが向上し多くの来訪者を見込めることから、農産物や特産品を販売する「道の駅」などの拠点施設が必要との考え方が示されました。防災の拠点についても、避難のために道路網を充実することや、東海大学を災害時の拠点として活用できないかといった意見が出されました。

『財政と事業効果』に関しては、命にかかわる事業を優先すべきことや、子育て関連の予算を増やして子育て世帯の流出を止めるべきこと、まちを活性化させる効果の高い事業を優先することなどの投資の優先順位に関わる意見や、時代の変化に応じて計画を見直すべきことなどの意見がありました。鉄道高架や貨物駅の事業については、必要性や費用対効果の面から再度見直しが必要ではないかとの意見もありました。

『PIの進め方』については、市に対しては同じ意見を何度も述べているとの指摘や、市と県で情報共有をして欲しいとの意見が出されました。また、勉強会での検討内容が高架事業とどう結びつくのかわからないことへの不安を訴える意見も出されました。

事務局から示された『戦略課題』については、概ね共有できることが確認されました。今後の課題としては、東駿河湾環状道路整備に伴い原地区内で新たに発生が想定される交通渋滞への対処もあるのではないかと指摘もありました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P Iプロジェクト 原地区第2回勉強会

グループ討議の概要【Bグループ】

本日は『地域づくりの目標』のうち、広域的な内容や全体の進め方についての議論が行われました。

予め整理された目標のうち、初めに『拠点』について議論がなされました。拠点という言葉は一極集中する印象を与えるが、沼津市だけで拠点を形成するのではなく、東部地域の各市町が連携し、役割分担しながら一緒に発展すべきことがグループで概ね共有されました。その際、沼津市の人口や税収は県東部でトップであることから「拠点」としての位置づけをあえて否定することはないことも確認されました。

『交流』については、新東名のスマートインターや東駿河湾環状道路など新たな交通網の整備がなされれば、物流拠点の立地の可能性は十分あるのではないかとの意見や、モノの交流拠点だけでなく人の交流拠点としたいなどの意見が出されました。また、企業の立地や税収、雇用、賑わいは簡単には生まれないのではとの指摘もありました。

『財政と事業効果』については、沼津市財政に無理がないようにすることについては異論はなく、関連資料の提示の要望がありました。

『地域づくりの戦略課題』については、今後の検討で立ち返るべき基本姿勢が文章として表現されているとの意見がありました。また、原西部地域には未だ開発余地があり、富士山の眺望や自然や景観を活かして、農業や健康関連などの新規産業、また、公園を導入するなど、今後のランドデザインが重要であることや、一方、原東部地域は、寺町を活かし歴史や文化を軸にした観光を考えたいとの意見が出されました。

原西部地域に現存する処理場などの施設について議論があり、これらは必要不可欠な施設であることは分かるが、緑で囲むなどの工夫を施して地域のイメージを改善して欲しいことや、こうした施設は分散させて欲しいことなどの意見がありました。

この他、『原地区の地域づくりの目標』における「住環境」については、定住人口を増やし活力ある地域づくりを行うことで限界集落になることを避けたいといった意見が出されました。また、「広域から人を呼ぶ」ためには、先ずは今後予定されている交通網の整備とともに、懸案の放水路の整備が不可欠であることを共有しました。なお、勉強会資料を前もって配布して欲しいとの要望がありました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架PIプロジェクト

原地区第3回勉強会

開催概要

4月20日（土）、原地区にて第3回勉強会が開催され、16人が出席しました。

勉強会の初めには、ステップ2の成果として「地域づくりの目標」が4月11日に公表されたこと、および、ステップ3に移行したことが報告されました。引き続き事務局から「戦略案（代替素案）の比較のための評価項目（案）」についての説明がなされ、これらについて、ファシリテーターの進行のもとグループ検討が行われました。

初めに、評価項目（案）に関する議論では、「避難路が確保できるか」について、建物の倒壊や火災等の危険も想定し、道路ネットワークとして見る必要があるとの指摘があった他、評価項目について初めて目にする人にも分かりやすく表現してほしいとの意見がありました。

地域づくりの戦略案（代替素案）については、原地区を「東側ゾーン（市街化区域）」、「西側ゾーン（市街化調整区域の沼川より南側）」、「北側ゾーン（市街化調整区域の沼川より北側）」の3つに区分し、それぞれについて議論が行われました。

これらゾーンのうち「東側ゾーン」については、寺社などの歴史文化資源を活かしたまちづくりを進めると同時に、これらの地域資源と原駅周辺、(国)1号と東駿河湾環状線の交差点周辺、松原の資源をつなぐことで観光客に回遊してもらい、相乗効果を高めるとの提案や、それぞれの地域資源をつなぐウォーキングルートなどの提案がありました。また、原駅から根古屋付近までの「中央部」を原の玄関口として位置づけ、新東名スマートICから中央部を南北に貫き原駅や海まで至る道を地域の軸線とすることなどの提案もありました。

「北側ゾーン」については、今ある自然を守りつつ、原IC周辺を原地区の観光や文化等の情報発信拠点とすることについて議論がなされ、隣接する西部浄化センター一帯を公園やビオトープとして整備し、原地区の自然を体験できる場とすることや、興国寺城跡から伸びる「矢通り」を活かしたウォーキングルートを整備することなどが提案されました。

「西側ゾーン」については、新たに整備を進めるゾーンとして、富士山の眺望を活かした食事の場などの観光スポットや、駐車場が必要との意見の他、雇用の場を設けて原の定住人口を増やす必要があること、また、雇用の場として、高齢者マーケットの拡大を見込んだ医療・福祉施設や、福祉関連産業を誘致することなどの提案がありました。このうち、貨物駅予定地となっている区域については、物流に関連する産業が周辺に集まることで原地区の活性化につながるのではないかと意見がありました。また、仮に貨物駅が原に来なかったとしたら、その場所に病院や高齢者向けの施設、小規模工場などの産業の他、グラウンドを整備することなどの提案がありました。

次回（5月14日（火））は、引き続き評価項目と戦略案（代替素案）について議論する予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではないことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第3回勉強会 グループ討議の概要【Aグループ】

今回からステップ3に移行し、代替素案と評価項目についての検討が始まりました。

検討に先立ち、前回からグループ編成の変更があったため、勉強会では貨物駅の賛否についてではなく原地区の将来のあり方を議論していくことを改めて確認しました。

まず、「評価項目（案）」に関する議論では、「評価項目」と評価の対象である「地域づくりの戦略案（代替素案）」の位置付けについて質問がありました。事務局から、「戦略案（代替素案）」とは、貨物駅の代替案ではなく原地区の振興についての戦略案（代替素案）であり、「評価項目」は今後検討する複数の戦略案（代替素案）を評価するための「ものさし」であることが説明されました。また、個々の「評価項目」についての議論では、「避難路が確保できるか」という評価項目について、津波からの避難だけでなく、建物の倒壊や火災等の危険も想定して道路ネットワークが十分かどうかの評価指標が必要との意見が出されました。

次に、「地域づくりの戦略案（代替素案）」について、原地区を「東側ゾーン（市街化区域）」、「西側ゾーン（市街化調整区域の沼川より南側）」、「北側ゾーン（市街化調整区域の沼川より北側）」の3つに区分し、それぞれについて議論が行われました。

共通して、地域資源を活かした観光のまちづくりが重要であるとの認識のもと、各ゾーンについて提案がされました。

まず、「東側ゾーン」では、歴史文化と海岸線を地域資源として活かし、「白隠の道」での休憩所の整備等が提案されました。また、周辺住民や観光客のために、原駅に南口が必要だとの意見が出ました。

次に、「西側ゾーン」では、自然と景観を地域資源として活かし、東駿河湾環状道路と国道1号の交差点付近での道の駅や親水公園の整備等、広域から人を集める療養施設、スポーツ施設、公園等の整備が提案されましたが、「西側ゾーン」は、敷地が細長く、かつ南北のアクセスに課題があり、土地活用のためにはこの課題を解決する必要があるとの意見が出されました。また、貨物駅予定地となっている区域については、貨物駅を整備すれば周囲に物流に関連する事業所が立地し原地区の活性化につながることを期待する意見がありました。

3つめの「北側ゾーン」では、田園風景を守りつつ、ビオトープや体験農園等を整備することで、観光の目玉としてはどうかとの提案がなされました。

さらに、上記3つのゾーンを結び回遊路で結ぶことで、それぞれの地域資源活用の相乗効果が期待できるという意見がありました。具体的なルートとして、白隠の道をはじめとする寺町の散策路、興国寺城跡から伸びる「矢通り」、千本松原など回遊ルートが挙げられました。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、暫定的に議論の概要を整理したものです。ファシリテーターが受け取った内容を議論の概要として記述したもので、個別の意見を示したものではありません。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P Iプロジェクト 原地区第3回勉強会
グループ討議の概要【Bグループ】

今回からステップ3に移行し、代替素案と評価項目についての検討が始まりました。

検討に先立ち、前回からグループ編成の変更があったため、貨物駅移転へのそれぞれの想いや賛否を越えて、これまでステップ2で検討してきた「地域づくりの目標」に立ち返りながら原地区の将来を議論していくことを改めて確認しました。

まず、「評価項目（案）」に関する議論では、初めて目にする人にも分かりやすい表現とすべきとの指摘や、これまで話し合った課題なども載せてはどうかとの提案がありました。

次に、「地域づくりの戦略案（代替素案）」について、原地区を「東側ゾーン（市街化区域）」、「西側ゾーン（市街化調整区域の沼川より南側）」、「北側ゾーン（市街化調整区域の沼川より北側）」の3つに区分し、それぞれについて議論を行いました。

まず、「東側ゾーン」については、原駅周辺を原地区の「玄関」として位置付けて、原地区全体の地域資源についての情報発信・交流拠点として整備するビジョンが提案されました。さらに、東名スマートICから中央部を南北に貫き原駅や海まで至る道の周辺と原駅周辺を含んだ原地区の「中央部」を交通の南北軸として整備することで、新幹線以北の山側にも、関東圏その他広域地域から企業を誘致することができるのではないかとの意見が出されました。

次に、「北側ゾーン」については、豊かな自然を活かせるような自然公園・運動公園などの整備がアイデアとして挙げられました。

3つめの「西側ゾーン」については、まず、富士山の眺望を最大の地域資源として活用すべきとの提案がされました。さらに、積極的な企業誘致を進め、単に雇用を創出するだけでなく、これらの職に従事する人が原地区に住むことで定住人口も増加するような施策の必要性が示されました。誘致したい企業の例としてシルバーマーケット（福祉・介護・健康）に寄与する企業が挙げられました。また、この区域のあり方を考えるにあたっては、貨物駅の役割やメリットやデメリットを明確にしていくことも必要ではないかとの意見も出されました。

さらに、各ゾーンの地域資源とそれを活かした施策を活かすため、北側ゾーンと西側ゾーンの接点となる東駿河湾環状道路と国道1号の交差点付近に、例えば道の駅のような多機能施設を設けることで、より一層集客効果を高め、各ゾーンを回遊するきっかけができるのではという展望が示されました。

その他、今後の地域づくりにおいては、ハード面の整備は行政が行い、ソフト面は市民が担うようにしてはどうかとの意見がありました。

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速に伝えるために、ファシリテーターがグループ討議の結果発表した内容等をファシリテーター及び事務局がまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

原地区第 4 回勉強会

開催概要

5 月 14 日（火）、原地区にて第 4 回勉強会が開催され、15 人が出席しました。

まず、事務局から第 3 回勉強会が出された意見を踏まえて修正した「戦略案（代替素案）の比較のための評価項目（案）」と、「地域づくりの戦略案（代替素案）図（案）」についての説明がなされ、これらについてファシリテーターの進行のもとグループ検討が行われました。

評価項目（案）に関する議論では、「地域づくりの目標」と「評価項目（案）」の項目が対一対一で対応していない点に分かりにくいとの意見が出されました。

続いて、前回までの議論を踏まえて整理した地域づくりの戦略案（代替素案）については、さらなる提案として、東海大学跡地にて県が行っている医療系大学誘致の施策や、参加者から提案されている「健康文化タウン」も合わせて記載することや、原地区の中央部にスマート IC から海までの南北のエリアを設定して地域づくりを考えたい、などの意見がありました。

ここで、地域づくりの戦略案（代替素案）を比較する目的から、地域づくりの戦略案（代替素案）に描かれている内容を全く行わなかった場合についても想定して検討を行いました。東駿河湾環状道路等の開通に伴う通過交通の増加、雇用が生まれにくいことからくる若者離れ、高齢化のさらなる進行が懸念されました。

次に、地域づくりの戦略案（代替素案）にて様々な空間・機能・施設が提案されている原地区の西側ゾーンについて検討を行いました。新たな提案として、原地区の海の資源である亀の産卵の観察や地引網体験、バーベキューなどができる公園の整備、地場産の物品の販売が提案されています。西側ゾーンについては、貨物駅予定地に貨物駅が移転しない場合と移転する場合に分けて、それぞれ検討を行いました。

まず、貨物駅が移転しない場合については、広域から人を呼ぶ環境をつくるために医療施設や介護施設、高齢者ケア付きマンション、農業体験のできる場や研修センターなどを誘致が提案されました。その他、地元の人が子どもを連れて遊ぶことのできる駐車場の整備された公園が提案されています。また、これらの施設等を整備するにあたっては、広域からの来訪者を引きつけるためにも道路整備や駐車場、飲食店が必要だとの意見があります。さらに、津波被害への懸念から津波避難タワー等の対策も必要とされました。一方で、医療施設の誘致については、貨物駅予定地周辺が住宅地であることから、救急車のサイレンやドクターヘリの音がうるさく感じられるのではないかと懸念も出されました。いずれにしても、貨物駅予定地は空き地となった場合の有効活用策が重要とされました。

貨物駅が移転する場合には、周辺の道路整備や企業立地を期待する意見や、立地した企業がそれぞれ調整池などを整備することにより治水が進むのではないかと期待が出されました。さらに、貨物駅の管理塔を津波避難タワーとして活用することで津波対策が進むとの意見もありました。一方で、大型トラック等の往来が激しくなるのではないかと懸念が示されました。

次回（5 月 25 日（土））は、沼津駅周辺地区と合同にて勉強会を開催する予定です。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第4回勉強会 グループ討議の概要【Aグループ】

まず、「評価項目（案）」について、それ自体には特に意見はありませんでしたが、原地区の戦略案（代替素案）は、貨物駅を原地区に移転しない場合を指すのではなく、現状に対する代替案だということから、比較評価するのが難しいのでは、という疑問が挙げられました。

次に、前回までの議論をまとめた「地域づくりの戦略案（代替素案）」については、基本的には十分に意見が反映されているということでした。加えるとすれば、原 IC から自動車呼び込むためには南北の道路整備、人が立ち寄る施設の整備が重要で、そのことで原地区を元気にしたいという意見がありました。また、海岸線を有効活用するための拠点、沼川沿いの桜並木を活かした魅力づくり、女鹿塚自然の村の計画、なども提案されました。

その後、様々な提案が出されている西側ゾーンについて、貨物駅が原地区に移転しない場合と移転する場合の両方について戦略案（代替素案）を練りました。

貨物駅が原地区に移転しない場合については、大きくは2つの活性化のアイデアが出されました。1つは、医療施設と介護、ケアの施設を核にして、高齢者の居住施設や体験型の農園、散策路、体育館などのスポーツ施設を展開し、雇用拡大や農業振興等にもつなげていく案です。周囲には、医療関係の研究施設の立地なども期待できるというご意見です。一方、現実的には、海に近い立地は津波のリスクが高いというマイナスイメージがあり医療関連施設の立地を懸念する意見もありました。また、この案では、事業主体として県は想定しにくく、民間が主体となるだろうが、現実性が低いのではという意見も出されました。もう1つは、海を活かしたレジャーの場とする案です。現在、原地区の海岸線には、地引網や釣りに来る客もおり、またウミガメの産卵も見られることから、海を生かした観光拠点を中心にして、バーベキュー施設や富士山の見えるビューポイントのある公園を整備していくとよい、という提案がありました。

貨物駅が原地区に移転する場合については、まず東駿河湾環状道路が整備されると伊豆方面への物流ルートができるので、原が物流拠点になりうることから、周辺に企業誘致が可能となり、雇用が広がるという期待がありました。他にも、個々の企業が調整池などを整備すれば治水対策が進む、貨物駅の管理棟が津波の避難タワーとして活用できるという期待も挙げられました。また、貨物駅が移転した場合でも、海を活かした公園づくりは可能だという意見がありましたが、大型車が頻繁に通ることなどが想定され、貨物駅と観光が両立できるか不安だという声もありました。なお、検討課題として、今後の貨物需要という視点で貨物駅の必要性があるのかどうか、本当に周辺に企業を誘致できるのかを検証したいというご意見が出されました。

最後に、今後、原地区にて活性化に向けて何もしない場合には、雇用がなく魅力がない地区になり、若者が去り、高齢化がさらに進んでいくだけだということが懸念されています。

※グループ討議の概要について

この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。修正が必要な点があれば、グループ討議の中で確認して下さい。

沼津高架P I プロジェクト 原地区第4回勉強会 グループ討議の概要【Bグループ】

前回に続き、評価項目と代替素案について検討しました。

まず、前回の意見を反映して修正された「評価項目（案）」については、今後の比較検討で常に立ち返るものになるため、読み上げ確認を行いました。その後の議論では、「地域づくりの目標」に対して複数の評価項目が示されている項目があり、「地域づくりの目標」と「評価項目」の対応が分かりづらいので、一対一で対応させて書かれているほうが、初めて目にする人にも理解しやすいのでは、との提案がありました。

「地域づくりの戦略案（代替素案）」に関連して、前回のグループ討議の概要について、原地区の発展、振興に寄与するには、東名スマートICから浮島インターを通り原駅や海まで至る南北軸、原駅周辺、および原インターを含んだ、原地区の「中央部」の整備が必要であり、「中央部」を核にして、東部の歴史文化エリアや西部の自然環境保全エリアへ人を誘うことが、地域づくりには重要との提案をし、「中央部」の存在を強調したが、そのことが表現されていないとの指摘がありました。また、これまで提案してきた健康文化タウン、女鹿塚の村、医療系大学などの記載がないとの指摘や、前回意見の出た霊園、メモリアル公園は削除したらどうか、との指摘がありました。

今回、「地域づくりの戦略案（代替素案）」については、主に「西側ゾーン」について議論を行いました。

まず、貨物駅予定地を含むゾーンでもあることから、これまでの原地区や貨物駅移転事業に関連する経緯、想いなどを語りあい、お互いの立場の違いや抱えている問題などを共有しました。最初から貨物駅移転を良しとしていたわけではないが、手続きに則って計画され、多くの話し合いを重ね、受け入れることを決断したものであるから、そのまま進めてよいのではないかと、との意見がある一方で、計画当初と時代背景や市民の生活が変わったので、時代にあった計画に見直していく必要があるのではないかと、との意見が出されました。

貨物駅が移転しない場合には、貨物駅予定地の長さ2km、幅80mという細長い土地の現実的な活用方法があるのかという投げかけが参加者からあり議論を行いました。大きな施設をつくるのは難しいかもしれないが、沼津市には車で行ける公園が少ない、単に遊べるだけでなく、自然に触れる、農体験やスポーツができる公園施設があるとよい、中道（なかみち）から県道（旧国道1号）までの未活用の土地も活かして、津波対策を兼ねた施設があるとよい、といった提案が出されました。

総じて、西側ゾーンについては、参加者同士、ときにこれまでの想いをぶつけあいながらも、前回までに描いてきた原地区の将来像を実現させるために、西側ゾーンの将来像を早く定めることが重要であるとの意見が共通して出されました。